

すぎなみ舞祭 開催趣旨書

「すぎなみ舞祭」とは、「子供が主役」「自分の住む地域への愛着」という全国の舞祭共通のテーマに加え、「子どもたちの自主性・社会性の育成」「ダンスを中心とした地域の繋がり」などを目的に2008年より始まった杉並区独自のものであり、いわゆるダンスコンテストとは異なるものである。ここに、この事業を行う意義を改めて確認するために開催趣旨書を作成する。

「ダンス」は自己の身心を鍛えるだけでなく、集団行動や自己表現の術を学び、世代を超えた仲間と活動できることも魅力である。すぎなみ舞祭がダンスに夢中で取り組む子どもたちの日々の練習の成果を発表する目標地点であることは勿論、子どもたちの指導に当たる関係者、運営に携わる地域協力者、関係諸団体、行政等、全ての大人にとっても、地域の絆や人と人との繋がりを生むものでなければならない。地域の繋がりが希薄と感じられ、子供たちを地域で見守る大人が激減してしまった現代社会において、すぎなみ舞祭を開催し、スタッフとして地域に根差した活動を行うことは、青少年の健全育成と地域の活性化の両面に寄与するものである。

すぎなみ舞祭の「総踊り曲」とは、私たちの住む地域「杉並」に縁のある曲をモチーフに作られたものであり、杉並を知り、杉並を想う気持ちを育むために継承していくものである。そして、世代もジャンルも異なる全ての参加チームが「総踊り」を踊ることで、すぎなみ舞祭の一体感はより強固なものとなる。すぎなみ舞祭に参加する子どもたちは、総踊り曲に触れることで杉並の歴史を知り、杉並に愛着を持つきっかけとなる。総踊り曲の原曲を知る大人たちは、その曲の由来や杉並との関わりを子どもたちに伝えることで、世代を超えた新たな繋がりを生み、その繋がりは私たちの財産となる。

すぎなみ舞祭は、ダンスの参加者だけではなく、全ての大人から子どもまでみんなが楽しめる1日を提供する場所でなければならない。そして、会場を賑やかに盛り上げる多くの出店（展）者も、その一人ひとりが、すぎなみ舞祭を作り上げるうえで必要不可欠な存在である。運営に携わる実行委員会メンバーと、協力を惜しまない地域の人々の支えがあり、万全の体制でダンスに参加する子どもたちと出店者を受け入れることで、当日の会場に足を運んでもらえるイベントとして成立するものである。

すぎなみ舞祭は、作り手も、参加者も、来場者も、全ての人々が笑顔になれることを目指し、この杉並区で育つ青少年が健やかに成長するための一助となるべく、存在しなければならない。